3．減損の認識をしない理由

鉄鋼館及び万国橋については、使用する合理的な計画を有し、改良を加えることにより全部の資産の使用を予定しているため、減損を認識いたしません。

（エキスポランド跡地関係）

1．減損の兆候が認められた固定資産の用途、種類、帳簿価額等の概要（単位：円）

資産名	土地	催物館他	日本の森他
用途	公園敷地	展示館他	造園施設他
種類	土地	建物	構築物
帳簿価額	6,525,766,477	46,470,384	25,056,371

2．認められた減損の兆候の概要

固定資産が使用されている方法について、現状において当該資産の使用可能性を著しく低下させる変化が生じていることから、減損会計基準「第３減損の兆候」に該当し、減損の兆候が認められます。

3．減損の認識をしない理由

エキスポランド跡地については、使用する合理的な計画を有し、改良を加えることにより全部の資産の使用を予定しているため、減損を認識いたしません。

なお、同跡地に残存している遊戯施設等の撤去を所有する㈱エキスポランド等に求めておりますがその後、同跡地の整備費用が発生する見込であります。しかし、その金額を見積もることは困難であります。

［損益計算書関係］

当機構は、平成20年度の法人税法改正に伴う法定耐用年数の変更を契機として資産の利用状況等の見直しを行い、当事業年度より一部の機械装置について耐用年数の変更を行っております。この変更に従い、従来の方法によった場合に比べて、当事業年度の経常利益、当期純利益、当期総利益は、それぞれ8,140,656円減少しております。

［キャッシュ・フロー計算書関係］

1．資金の期末残高の貸借対照表科目別内訳

現金及び預金　736,065,796円

資金期末残高　736,065,796円

［行政サービス実施コスト計算書関係］

1．引当外退職給付増加見積額

引当外退職給付増加見積額は、国及び大阪府からの出向職員にかかるものであります。

2．機会費用の計上方法

政府出資金及び大阪府出資金の機会費用の計算に使用した利率は、国債利回り等を参考に1.340％としております。

［重要な債務負担行為］

該当なし

［重要な後発事象］

該当なし

［区分経理］

独立行政法人日本万国博覧会記念機構法に基づき、公園事業にかかる経理（第一号勘定）と基金事業にかかる経理（第二号勘定）に区分しております。

附属明細書

1．固定資産の取得及び処分並びに減価償却費の明細

法人単位（第一号勘定）

（単位：円）

資産の種類		期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	減価償却累計額		差引当期末残高	摘要
							当期償却額		
有形固定資産（償却費損益内）	建物	3,942,338,889	35,148,382	—	3,977,487,271	1,116,910,067	207,508,671	2,860,577,204	
	構築物	5,951,571,859	136,465,517	—	6,088,037,376	1,910,123,963	313,438,177	4,177,913,413	
	機械装置	1,553,343,375	113,694,286	—	1,667,037,661	508,423,712	111,034,582	1,158,613,949	
	車両運搬具	21,551,397	4,218,000	4,056,855	21,712,542	12,722,655	1,867,245	8,989,887	
	工具器具備品	92,162,425	3,316,400	1,763,418	93,715,407	58,068,892	11,522,118	35,646,515	
	計	11,560,967,945	292,842,585	5,820,273	11,847,990,257	3,606,249,289	645,370,793	8,241,740,968	
非償却資産	土地	97,687,426,518	—	—	97,687,426,518	—	—	97,687,426,518	
	建設仮勘定	7,680,000	54,500,000	1,480,000	60,700,000	—	—	60,700,000	
	計	97,695,106,518	54,500,000	1,480,000	97,748,126,518	—	—	97,748,126,518	
有形固定資産合計		109,256,074,463	347,342,585	7,300,273	109,596,116,775	3,606,249,289	645,370,793	105,989,867,486	